

自己評価報告書(最終報告)

報告者

言語系コース(英語)
／山森 直人

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

①現在従事している科学研究費補助金(基盤研究C, 2010-2012年度)によるプロジェクト(英語科教師教育のための教室英語力育成プログラムの開発)での成果や課題をもとに、次期科研プロジェクトを計画する。

2. 点検・評価

①科学研究費補助金(基盤研究C, 2010-2012年度)によるプロジェクト(英語科教師教育のための教室英語力育成プログラムの開発)の2012年度の成果は下記「II-2. 研究」に示している。同プロジェクトの成果や課題をふまえて次の研究テーマと計画を検討し、2014年度以降の科研費申請の準備をはじめた。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

- ①教育支援講師・アドバイザー派遣制度、公開講座、免許更新講習などの機会を通して本学大学院を宣伝する。
- ②研究会での発表や論文投稿等を通じて、本学大学院における教師教育実践を報告する。
- ③学校教育現場における課題やニーズにもとづく教育研究活動を実施する。

2. 点検・評価

- ①公開講座(8月22日)や免許更新講習(8月22日)を通じて、受講者に本学における教師教育(教室英語力の育成)の取り組みを体験してもらった。
- ②第24回四国英語教育学会高知研究大会(6月24日)における研究発表では教育支援講師・アドバイザー派遣制度、公開講座、免許更新講習などを通じた教員研修(教室英語力の育成)の実践報告を行い、第38回全国英語教育学会愛知研究大会(8月4日)における研究発表では本学学部における英語科教員養成(教室英語力の育成)の取り組みを報告した。『日本児童英語教育学会(JASTEC)研究紀要』第31号および『小学校英語教育学会学会誌(JES Journal)』第13号に掲載される学術論文では教育支援講師・アドバイザー派遣制度、公開講座、免許更新講習などを通じて行っている教員研修の取り組みの理論的方向性を示した。
- ③現在従事している科学研究費補助金(基盤研究C, 2010-2012年度)によるプロジェクト(英語科教師教育のための教室英語力育成プログラムの開発)を中心に、学校教育現場における課題やニーズにもとづく研究活動を進めた。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ①英語科教育コースの学生の英語力向上に努める。学生に英語資格試験の受験を進めるとともに、そのための学習環境を整備し、試験対策に協力・支援していく。
- ②英語科教育コースの学生の教育実習に事前事後をふくめ積極的に関わる。
- ③日頃から英語科教育コースの学生に積極的に声をかけ、学生生活、勉学、進路などに関して相談しやすい雰囲気をつくる。
- ④英語科教育コースの学生の就職支援に積極的に取り組む。

2. 点検・評価

- ①英語科教育コース(学部)および言語系コース(英語)(大学院)の学生の英語力向上をねらい、コース掲示板にて英語資格試験の情報を宣伝した。英語科教育コースおよび言語系コース(英語)の学生を対象としたTOEIC-IPテスト(6月9日)を実施した。また、同テストの事前対策英語勉強会(10日間)を開催し、テスト対策を協力・支援した。
- ②「初等中等教科教育実践Ⅲ」を通じて英語科教育コースの学生の教育実習事前指導をおこなった。特に、本学附属小学校・長野仁志教諭および附属中学校英語科・藤井紀代美教諭と連携し、同授業内で模擬実習(附属学校において授業を実施)をおこなった。また、英語科教育コース3年生による教育実習(9月)の実習授業を積極的に観察し、指導方法等について助言した。
- ③日頃から英語科教育コースの学生に対し積極的に声をかけたり話す機会を設け、学生生活、勉学、進路などに関して相談しやすい雰囲気をつかった。
- ④英語科教育コースの就職支援を積極的に行ってきた。具体的には、進路や留学に関する相談にのったり、教員採用試験に関する質問に答えたりした。また、就職支援チーム主催の教員採用試験前の模擬面接・模擬授業に面接官として参加した(6月16日)。
- ⑤卒業研究指導生のうち2名および修士研究指導生のうち1名が小学校教員採用試験に合格した。また、教員採用試験に合格しなかった卒業研究指導生1名と修士研究指導生1名は平成25年4月より、県立高校において臨時採用の職を得た。

II-2. 研究

1. 目標・計画

- ①科学研究費補助金による研究プロジェクト「英語科教師教育のための教室英語力育成プログラムの開発」を計画どおりに進める。
- ②授業内外での教育活動等と研究を連動させ、教員養成・現職教育に関する実践的な研究を推進する。また、学校教育現場に積極的に向向き、教育の現実を踏まえた教育研究を進める。
- ③研究成果を学会発表や論文投稿等の手段で積極的に公表する。

2. 点検・評価

学術論文「小学校外国語活動における教師の英語使用に関する理論的考察—教室英語力育成のための教員研修プログラムの開発を目指して—」が『日本児童英語教育学会(JASTEC)研究紀要』第31号に掲載された(連合大学院基準A論文)。

第24回四国英語教育学会高知研究大会において「教室英語力を育成するための小学校教員研修プログラムの実践」と題する研究発表を行った(6月24日)。

第12回小学校英語教育学会千葉大会において「外国語活動における教師の英語使用に関する実態調査266—教室英語力育成のための教員研修プログラムの開発を目指して—」と題する研究発表を行った(7月16日)。また、同発表内容を発展させた「外国語活動に求められる教師の教室英語力の枠組みと教員研修プログラムの開発—理論と現状をふまえて—」と題する論文が『小学校英語教育学会学会誌(JES Journal)』13号に掲載された(連合大学院基準A論文)。

第38回全国英語教育学会愛知研究大会において「英語科教育実習生の教室英語使用に関する研究」と題する研究発表を行った(8月4日)。また、同発表の内容をもとにした「教育実習生の教室英語力の認識に関する事例研究」と題する論文が、全国英語教育学会紀要(ARELE) 24号に掲載された(連合大学院基準A論文)。

「中学校英語科授業における教師の英語使用に関する調査」と題する論文を執筆し、四国英語教育学会『紀要』第32号に投稿し、掲載された。

「高等学校英語科授業における教師の英語使用に関する調査」と題する論文を執筆し、『鳴門教育大学研究紀要』第28巻に投稿し、掲載された。

2011年度の教育実践フィールド研究の実践報告「中学校英語科授業のプラス1時間に対応する—英語スキルアップトレーニング法の開発—(その3)」を『鳴門教育大学授業実践研究』(第12号)に投稿した。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

①平成24年度に担当することになる委員を通して、本学の運営に貢献する。

2. 点検・評価

- ①大学院入試委員会の委員として本学の運営に携わった。
- ②大学機関別認証評価WGの委員を担当した。
- ③学部教職課程認定検討専門部会の委員を担当した。
- ④CALL設備の仕様策定委員会の委員を担当した。
- ⑤学部前期日程による入学者選抜試験[小論文(共通)]問題作成者を担当した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ①教科教育実践や教育実習等を柱に附属学校教員と積極的に連携を図る。
- ②鳴門教育大学英語教育学会や四国英語教育学会など地域の英語教育研究活動に積極的に参画する。
- ③教育支援講師・アドバイザー派遣制度等を通して積極的に地域の学校に出向き教育支援を行う。
- ④公開講座や教員研修等を通して、優れた教員の育成に積極的に関わる。

2. 点検・評価

- ①初等中等教科教育実践Ⅲにおいて本学附属小学校・長野仁志教諭, 附属中学校・藤井紀代美教諭と連携し, 教育実習の事前指導を行った。
- ②四国英語教育学会の事務局長・徳島県支部理事を担当した。
- ③教育支援講師・アドバイザー派遣制度で, 徳島県立川島中学校において同校3年生に「英語とのつきあい方」と題する講演を行った(7月10日)。
- ④本学開催の免許更新講座(8月22日)と公開講座(8月22日)において「教室英語(Classroom English)の使用について」と題し, 講義・演習を担当した。
- ⑤徳島市・名東郡中学校英語弁論大会(9月19日)の審査員を担当した。
- ⑥徳島市・名東郡中学校英語教育研究会(10月30)において指導・講話を担当した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

--